

第3回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成18年6月7日（水）

午後2時～午後4時

場所：射水市役所新湊庁舎別館302号室

事務局：委嘱状の交付、出席委員、アドバイザーの紹介

事務局：続きまして、産業経済部長がごあいさつを申し上げます。

部長：委員の皆様並びにアドバイザーの皆様、本日はお忙しい中ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

なお、今ほど委嘱状を交付させていただきましたが、委員2名におかれましては、今回から新しく戦略会議の委員として入っていただくことになりました。後ほどまた申し上げますが、戦略会議をより一層充実させていただきたいということから、お二人に協力いただくことになりました。よろしく願いいたします。

さて、この戦略会議もご承知のとおり昨年9月に発足いたしました。これまで、商船高専の学生さんたちによるアイデアとか提言といいたいでしょうか、それから、まちづくり講演会といったものを、委員並びにアドバイザーの皆様のご協力で実施して参りました。ご承知のことと思うのですが、新湊大橋も目に見えて工事が進んできております。こうした中で、我がみなとまちづくり戦略会議も中身の濃いものにしていかなければならない、より具体的な協議をしていく時期に来ているんじゃないかと思っています。

そうしたことから、委員の充実も図らせていただいたわけですが、今日の会議からは、今までは提言をいただくなりその考え方にですね意見統一をすることをやってきましたけれども、これからはどういう方策があるのかという具体的な検討をやっていただきたい、つきましては、行政が担うもの、民間に担っていただくもの、そういったすみ分けといいたいでしょうか、これから具体策を検討していく中で、どうしても取り組んでいただかなければならないと思っております。

そういう意味では、これからの正念場といいたいでしょうか難しいときになるのではないかと思っておりますが、事務局も一生懸命がんばりますので、ぜひ委員各位から積極的なご発言をいただいて、実のある会議にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局 : 事務局員の紹介

事務局 : それでは、議事に移りたいと思います。
委員長よろしく申し上げます。

委員長 : 今日は第3回になります。実質的な話し合いに入って行きたいと思っておりますが、第1回、第2回でも申し上げましたように、単にここで話して審議会的に答申をするというのではなくて、それぞれその部門に属する方が集まって、新湊のことをよくご存じですし、そしてこのまちがより活性化できる第1歩を具体的に歩みだしていきたい、そういう意味で私たちができるともお願いしたいと思っております。あるいはここに来られている委員同士が終わってからいろいろ連携を取りながら、それぞれの行事の応援をお互いに頼んだりということをやっていければいいかなと思っております。会議の名前が「新湊みなとまちづくり戦略会議」となっている意味はそういった意味でありまして、今日は第3回の内容についても盛んに意見を積み上げていきたいと思っておりますので、何にもしゃべらないということがないように申し上げます。まずしゃべることが第1歩ということで申し上げます。

それでは、限られた時間ですので、こちらで用意したスケジュールに沿っていききたいと思います。

この「新湊みなとまちづくり方策」は、多くの意見を積み上げてできたものです。これをいかに、実際に実現していくかという問題になるわけですが、この中身はお手持ちの冊子の中の折り込みに書いてありますが、第1段階と第2段階とで分かれております。第2段階は近未来の方になりますが、第1段階は大橋ができるくらいのところ、すぐに近いところ、今からすぐに取り掛からなければならない部分がございます。そういった面を、こういった内容が提案されているのかまず確認をして、どこがどのように進んでいるのか、全く進んでいないのか、何をやろうとしているのかということ、事務局のほうから、まずご説明をいただいて、それに関して、それぞれ今日お集まりの方から、それに対するご意見を頂戴したいと思います。

そういうことが、第1点です。それでは事務局から説明をお願いします。

事務局 : それでは、資料No.1についてご説明いたします。

今ほど、委員長のお話にもありましたが、このみなとまちづくり方策の実現に向けての各施策は、長期的な取組になることから、段階的な整備を想定して

います。お手元の冊子の9ページをご覧ください。

臨海部の土地利用活用方策についてですが、9ページの上を書いてあるとおり、第1段階として、地域に大きな影響を与える新湊大橋（仮称）の完成まで、そして、第2段階として、それ以降の長期としています。

これは、臨海部の土地利用のみではなく、臨海部と中心市街地との連携方策についても同様に段階的な整備を想定しています。こちらは、14ページの上を書いてございます。

それでは、まず臨海部「海王町」での土地利用活用方策の第1段階に挙げられている事業についてご説明いたします。まずは、冊子の9ページをご覧ください。

海王町の第1段階では「新鮮で種類が豊富な魚介類の提供や新湊大橋（仮称）などの景観を背景とした集客力の向上」を目標として各種事業が計画されています。①の交通機能から順に記載してありますが、この細かいものが16ページ・17ページに書いてございます。そして場所を明記してあるものが、前のページの15ページとなります。

これと同じものをプリントしたのが資料1となります。

それでは上から順に現在の状況等をご説明いたします。

まず、駐車場については、将来的には市街地の駐車機能を一部代替する駐車場として整備することになっております。場所については、冊子の15ページに案として書いてございますが、土地の所有者と協議しなければならないと考えられます。事業主体については現在のところ未定であり、実施状況についても同様です。

次に、遊覧船・乗り場についてです。現在、新湊観光船株式会社によって、内川や富山新港を遊覧する遊覧船が運航されております。このことから、現在の事業主体については民間であり、実施状況についても実施中となります。また、乗り場については、現在海王丸パーク内を利用されています。

次に、新湊大橋（仮称）歩道利用者のたまり空間として接続部に設けるポケットパークの整備については、事業主体として行政が考えられます。また、実施状況については新湊大橋の整備と連動するものでありますから、未定となっております。

コミュニティバスの増便等による公共交通の利便性向上については、行政と事業者が一体となって考えるべきものであります。採算等の問題もあり、現在は未定であります。次の道路整備については事業主体は行政であります。

集客機能の導入施設に移ります。

集客施設として挙げられている、物販施設、レストラン、オープンカフェ、

体験型宿泊施設、温浴施設については、事業主体等は現在計画等はございません。賑わいを得るためには、ここに挙げられた施設の誘致が必要であり、この場で、誘致の方法等についてご意見をお伺いできればと考えておりますので、よろしくお願ひします。

次に、情報提供機能ですが、新湊大橋や海王町などの情報を集約して来訪者に提供することについては、現在、市で検討がなされております。こちらは、資料2を使って、後ほど詳しく説明いたしたいと思ひます。また、ここに書いてあるパンフレットについては、市で少なからず予算化してございます。皆さんの各種団体のお力で今年度作成したいと思ひますので、いい方法があればご提案をお願ひします。

次に、居住機能についてですが、現在民間のマンションや市営住宅等があるわけですが、今後も引き続き民間事業者の誘致が必要ではないかと考えております。また、同様に高齢者を対象とした施設についてもあるわけですが、今後はその下に書いてある新湊大橋や海王丸などの景観と調和した街並みを形成するよう、景観についての取り決めが必要になってくると考えられます。景観の取り決めについては住民と行政が一体となって考えるべきであります。

次のレクリエーション機能にある、緑地・公園そして海王丸パークの充実につきましては、管理者がいらっしゃいますので、そちらに提案していくということになろうかと思ひます。

次のコミュニティ活動の場の提供についてですが、次の遊休地利用と含めて、市民と一緒に花壇づくりや植栽などができないか、市民の参加を得る方法などの提案をいただきたいと思ひます。青年会議所で実施され、きれいなコスモス畑を作られた「F-プロジェクト」は私も参加させていただきましたが、とてもいいアイデアだったと思ひます。今日は、青年会議所の方からも、その進め方やアイデアについてぜひ提案いただければと思ひます。以上が海王町の第1段階の事業でございました。

続きまして、海竜町の第1段階に挙げられている事業でございます。海竜町については、「健康的な生活環境の追求、持続可能な資源循環型社会の実現に向けた取組」を目標に次の事業が挙げられています。順にご説明していきます。各事業の実施位置については15ページをご覧ください。

健康機能の施設導入については、まず「元気の森公園」ですが、現在、富山県において整備されており、昨年11月1日に一部共用を開始し、パークゴルフ場は現在多くの方々が利用されており、健康づくりに寄与しております。

また、海を使った取組に書いてある海洋研修やトライアスロンについては、今後関係者への提案を含めて、その中で検討されていくものと考えております。

次に研究施設についてですが、風力・太陽光を活用した発電施設、また、リサイクル研究施設として、輸入材加工の廃棄物などのバイオマス活用研究と掲載してございますが、こちらの方については、今日参加いただいている木材業界での取組も含めて、後ほどご提案いただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また、海洋水産技術研究につきましては、既存の研究施設への提案等を行っていくべきであると考えております。

次に、交通機能のポケットパークの整備については、海王町での対応と同様となりますので、省略いたします。

続きまして、眺望機能についてですが、新湊大橋と夕焼け、そして、海を眺める眺望点として、先ほどご説明した元気の森公園が挙げられます。元気の森公園には丘が整備されており、そこから見る景色は、今まで見たことのない新湊を感じさせてくれます。まだ、行かれたことのない委員の方におかれましては、ぜひ見学にお出かけくださればと思います。

次に居住機能については、戸建住宅等を建築する住宅地の整備については、後ほど事務局からお話いたします。

また、景観の整備については、海王町と同様でありますので、省略いたします。

次のコミュニティ活動の場の提供と遊休地利用については、学校関係また市民の参画という部分で、専門的な委員の皆さんの提案をお願いしたいと思っております。

続きまして、市街地の事業でございます。市街地の事業については、旧新湊市で作った中心市街地活性化基本計画や商工会議所が策定されたTMO構想の事業の中から特に関係するものが挙げられています。

集客機能として、まず内川の景観整備についてですが、資料2の説明で行いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

次の観光モデルコースの設定ですが、こちらは新湊TMOのほうで昨年作成済みでございます。商工会議所さんもいらっしゃっていますが、今後の活用方法等についてご提案があればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次の曳山展示施設については、これからのお話であろうと思いますが、行政と曳山を保存していらっしゃる自治会、そして曳山保存会など各関係機関との話し合いが必要かと思っております。

次の川の駅については、現在、勤労青少年ホーム内を利用してNPO法人が各イベントを開催していらっしゃるところであります。

続きまして、サポート機能については、いずれも行政が中心となって各関係

団体と協働できるしくみづくりを検討していかなければならないと考えております。

最後に、臨海部と中心市街地との連絡機能でございます。新たな移動手段については、遊覧船は事業者との協議もございましょうし、レンタサイクルについては、全体のイメージを含めてこの場で協議していただければと思います。

最後に、移動手段の利便性向上ですが、駐車場の整備については、場所も含めて関係機関と検討すべきと考えております。また、次の一方通行の見直しについては、全体の人・車の流れを見た上で計画を持って警察等と協議すべきと考えております。

また、万葉線の延伸等については、その検討について万葉線株式会社へ提案していきたいと考えております。

次の共通・企画乗車券については、商店街への人の流れをつくることが重要と考えており、ぜひとも商店街を代表してお話をいただければと思います。

最後の公共交通については、行政と事業者が今後検討すべきと考えております。また、その際は中心市街地の皆さんとの話し合いも不可欠だと考えております。

ここまで、ざっと説明させていただきましたが、いま説明した事業の実現に向けて考慮する事項が掲載されております。20ページをご覧ください。

20ページには、方策の実現化に向けた考慮する事項として、3つ書いてございます。

1つ目は、ソフト事業の展開として、ハード整備に対応してソフト事業が必要であるということが書いてございます。

次に2つ目として、国際化への対応となっております。こちらについては、今日お越しの国際交流協会から、何かご意見をいただければと思います。

そして、最後に少子・高齢化への対応が書かれております。

また、21ページでは、環境・景観・交通体系については、計画の策定を求めています。

次の22ページをご覧ください。

実現化の方針として、「住民と行政の協働」「関係機関との連携・協力」を目標として、先ほど説明した事業の中から先導的事業を提案しています。

海王町では物販施設などの集客機能、海王町でクリーンエネルギー研究活用施設など、研究機関との連携機能、市街地では内川の景観整備等を集中的に推進する先導的事業として明記をしております。

終わりになりますが、委員の皆さんには、漠然とした内容でイメージがなかなか湧いてこないと思いますが、一つ一つの事業の説明をした中で、行政で取

り組むと説明した事業以外の部分で、なおかつ、この先導的事业として掲載してある事業を中心に、ぜひとも実現に向けた提案をいただき、話し合いの中から具体的になってくればと思いますので、よろしくお願ひします。

以上でございます。

委員長：どうもありがとうございました。資料2は後で説明ということでしたが、どうでしょうか。

事務局：一部事業が重なっている部分の説明が資料2なので、引き続き資料2の説明をさせていただきます。

委員長：そのほうがいいようですね。それと海竜町の居住関係も一緒にして頭に入れておいたほうがいいと思いますので。

事務局：それでは、お手元の資料2でございます。この資料は、まちづくり交付金事業の概要ということで、その分だけ資料にして持ってきております。あと海竜町の住宅関係については口頭で説明させていただきます。まず、まちづくり交付金事業の概要についてご理解いただきたいと思ひます。ここに挙げてある目標というところでございますが、内川を活かした潤いのある魅力的な水辺空間による市民・観光客の交流拠点の創造ということで、代表的な指標としては海王丸パークの観光客数、計画をしていた15年度に80万人を20年度には85万人に増やしたいということで進めている事業でして、17年度から20年度の4カ年にわたる7億7千5百万円を投資する事業でございます。今申し上げた項目・指標から、私どもとしては、まちづくり交付金事業で既にやっている事業をより充実させていきたいということで、変更も視野に入れております。とりわけ、このみなとまちづくり事業と密接な関係を持っておりますので、この戦略会議の中からの様々なお提言もいただきながら、場合によっては必要な変更もしていきたいということでございます。まず、現在の計画についてご説明いたします。資料の地図の中で赤の線で囲んである部分がございます。北は海です。西は庄川、東は新港、南は万葉線という区画、全体で210ヘクタールでございます。この中で黄色い部分が基幹事業でございます。この計画を立てていた当時、関連事業は緑の枠の事業ですが、これは直接私どもの事業ではなくて、関連する事業として想定していたものを掲載しております。まず、中心的な事業といたしましては、内川がございます。赤で囲んだ対象地域の真ん中ぐらいに水色で線が見えると思ひます。西の方から申しますと、市

道新湊20号線に架かる桜橋、その右が茂八橋、そして藤見橋、この藤見橋というのは、市役所西側の通りに架かる橋です。それから、東のほうへ行きまして中新橋、この橋は中町と東新町を結んでおりまして、今現在は0.5トン未満しか通れない小さな橋でございます。その隣には、地域生活基盤施設これはポケットパークでございます。また、その下には二の丸橋ということで、5本の橋が計画の中で整備することになっています。また、内川の藤見橋から東橋にかけて、照明と植栽の計画がございます。あと、20年度には海王丸パークの方に地域生活基盤施設情報発信板というものを計画しておりますが、新聞等でご覧になったかと思いますが、砺波インターのほうで液晶の案内板を作っていたところ、それが7年で故障して、1億円ほどのものなのですが、修理するのに7千万円ほど修理費がかかるということで、私どもの内部では、果たしてここでこういうものをするのは適切なものであろうかということが一つございます。また、現状でここでそうした情報発信板をつくって、どれだけ目標達成に近づけるのか、むしろ直接的に誘客するようなことを考えたほうがいいのかということで、できれば今年度9月いっぱいぐらいまでかけて、精力的に見直しをしたいというふうに思っております。ここまで申し上げたのは、まちづくり交付金事業としてやっております内川の整備を中心とした事業でございます。そのほか、都市計画のほうといたしましては、このみなとまちづくりに対応するものとして、1つは都市計画道路の見直しがございます。この市役所の前の道路、都市計画道路名でいえば、庄川放生津線と呼ばれていますが、この道路は富山新港まで続いております。この道路の北側にパラペット、防波堤がありまして、それが新湊の南北を分断する形になっている、そういう意味でその部分の場合によっては取り払って、都市計画道路を付け替えてやることによって、みなとまちづくり方策にあった大橋の降り口のポケットパークとの連携を強化していくということも場合によっては考えられるのかなと、とりあえず現在の庄川放生津線については、見直しを今年度行っていきたいと考えております。それと、先ほどの地図のエリアの中で、奈呉町、中町、山王町、四十物町、これらの地区が重点密集市街地ということで、防災上非常に危険な地域だということで国の指定を受けております。今、これらの町内の皆さんとまちづくり勉強会ということで会を立ち上げまして、今後この地域をどうしていくかということ今検討しているところです。そういう意味では、内川にも近い部分がございますので、まちづくり交付金との連携も併せて重点密集市街地の問題も取り組んでいきたいと考えております。それから、先ほど海竜町の問題もございました。冊子の地図でご説明しますが、堀岡小学校の左側が住宅団地となっております、これは既に完成をし土地造成が終わり、順次、家が建設さ

れております。現在、堀岡小学校の東側の部分 5.4 ヘクタールを第 2 期の区画整理事業ということで、準備をいたしております。当初はここにありましており無電柱化ということも考えていたわけですが、なにぶん完売もしなければならぬという側面もございまして、これについては若干後退せざるを得なかったわけですが、高質な居住空間を作っていきたいということで準備をしております。これにつきましては、ご存じのとおり県の方で埋めていただいた用地を取得して整備するものでございますが、その準備をしているところでございます。都市計画課として、現在みなとまちづくりに関連する事業の紹介をさせていただきました。以上でございます。

委員長 : 以上でまちづくり方策並びに関連するような事業の内容もいれて説明をいただきました。これから 1 時間弱ですね、意見交換に入ります。いろんな意見を出していただきたいと思います。それが終わったあと、7 月に行われる海フェスタについて、これもこの地区を活性化させる大イベントになると思いますので、その辺りを今日来ていただいている国や県の方からお話をお伺いしたいと思います。それから資料として私の名前が書いてあるものは、これはその他のところで時間があれば使いたいということです。大変たくさんのご意見をいただきましたが、自由に意見を出していただきたいと思います。順に意見を言っていけばいいのですが、そんなふうには頭の中は整理できませんので、自分の関心があるところから言っていただいて、お互いに詰めていくということにしたいと思います。そういうことでお願いします。

委員 : 今ほどご説明いただいた中で、先導的的事业の中で海王町の集客機能として温浴施設ということと直接関連するかは分かりませんが、平成 15 年に新漁村コミュニティ基盤整備事業基本計画が策定されているはずですが、この計画と温浴施設との連動性と申しましょうか、結びつけることができるのかということと、それと体験型宿泊施設、これも直接関係はありませんが、平成 16 年にフィッシャーマンズワープ建設構想、私どもは海鮮館とっておりますが、これが構想を体験型宿泊施設と結びつけることができないか聞かせてほしい。

もう一つは先導的的事业で市街地での集客機能の一環としての川の駅でございますが、現在、勤労青少年ホームでオアシスサロンとして「NPO 法人水辺のまち新湊」で川の駅として活用されているわけですが、先ほどお話されたまちづくり交付金事業 7 億 7 千万円の一部を川の駅建設に当てることができないか、例えば、紺屋町の北陸銀行跡地に川の駅と地産の販売を含めた観光交流センターとして位置づけし、まちづくり交付金事業で前倒しできないのか、そういう

ところをお聞かせください。

委員長 : 農村・漁村の関係は国で音頭を取っていたと思うんですが、地元ではどんな動きがあって、現在どうなっているのか分かればお願いします。

部長 : 次回に回答させていただくということでお願いします。

委員長 : ということは、その点はあんまり進んでいないのかと。

委員 : 私が言いたいのは、そういう計画をその当時の委員で策定されたので、すから、何かできるのであればという思いで申し上げます。

部長 : コミュニティ基盤整備事業についても頓挫したような状況になっているのが実態です。

委員長 : 氷見では実際使っていたと思います。分かれば次回に説明をお願いします。それと、もう一つ動いているということで内川を活性化させるためのNPO 法人の話が出ましたが、川の駅ですが何かありますか。

事務局 : NPO 法人との連携もしていきたいと思っています。その中で今ほどご提言のあった案が出されておまして、私どもとしてはそれも変更の検討すべき重要な課題だと考えております。

委員長 : NPO 法人ができているということは、これは誰が責任者になっているのでしょうか。

委員 : 委員長は商工会議所の副会頭がなっております。もう既に動いており、オアシスサロンでは毎週日曜日に子供向け並びに一般向けの映写会を開催しております。

委員長 : そういう動きがあることも知っておいていただきたいと思います。

委員 : 川の駅は内川に少なくとも4つほどなければ機能しないので、先ほどの川の駅建設を前倒しできればと思い申し上げたのです。

委員長 : ほかにご意見を申し上げます。

委員：まちづくり交付金の7億数千万円については、どちらかといえば橋にお金をかけすぎた。先ほどの電光掲示板の話は砺波の失敗の話もあるし、時代が変化していく中、1億数千万円もかけるのはいかがか。私とすれば、今万葉線でも乗ってもらえれば分かるのですが、高岡地内の駅舎は国道の整備と併せてきれいになっている。一番見劣りしているのは新湊地区の駅舎の周りである。そういうところをタイミングよくやらないと、本当はやる予定だったが脱線の影響で先送りになっている。富山のライトレールは結構うまくやっている。ライトレールは駅のネーミングでも企業に販売している。新湊地区にしても高周波の前、JFEの前は「中伏木 JFE 前」という呼び方をしてもいいと思う。その代わりに、駅舎の整備をしてくれとか、民間資金を取り込んで早急にしなければならぬと。かなり遅れているという見方をしている。だから、小さいお金で目に見えるようにどんどん手を打っていただきたい。そういうことをやっているということが分かるようにお願いしたい。もう一つは、万葉線駅舎の周りにも整備すれば駐車場ができる。だから、駅舎の周りでパークアンドライドとして使えばいい。六渡寺駅も中伏木駅にも結構ある。万葉線は新しい車両が一番多く乗っている。古い車両はパスしている。新しい車両が入れば、また乗客が増えるし、遊覧に来ているのだから。それをうまく利用するには、駅舎とまちをどのようにつなぐのかが重要。その辺は工夫をすれば大きなお金がかからない。もう一つは、オールドタウンの面白みは何かといえば、狭い路地、路地だけでも写真になる。写真の本も作られている。100メートルから200メートルの路地でも手をかけずに整備するということが今後のまちづくりには重要。だから、大きなお金がかかる事業ばかりがまちづくり交付金にいつてしまっているが、細かいところでやってほしいということをお願いしたい。

委員長：先ほど事務局からぜひ意見を早急に聞かせてほしいといった部分もたくさんあるので、その中で思いついた意見がありましたらお願いします。

委員：資料2についてですが、指標のことでお聞きしたいのですが、海王丸パークの観光客数、平成15年は80万人、平成20年で85万人という指標を出されているのですが、私どもの学生が、海王丸パークは旧新湊市のシンボルであるということで研究テーマに幾度となく取り上げて入込者数について調査しております。ここ2~3年は頭打ちの状態、どちらかといえば減少しているというのが現状です。それで学生の目で見てもどうすればいいのか、どうすれば入込客数が増えるのかというと、だいたい結論として出てくるのが、「パー

ク内での魅力あるイベントの開催」、具体的に言えば、なかなか出てこないのですが、「海王丸の展帆の回数を増やせば入込者数が増える」、今は年間 10 回くらいで、それを倍くらいにすればかなり増えるのではないかというようなことを言っております。それで、ついこの前の日曜日に海王丸の展帆がありました。海王丸パークを行政はテーマパークと捉えられておりますが、我々としては教育の場として捉えており、2 年ほど前から授業の一環として使わせていただいております。毎年 20 人くらい、今年は 25 名でほとんど 19、20 歳くらいの女性ですが参加して、海王丸のマストの頂上まで登っています。この前の日曜日の展帆の日は、ボランティアの参加が 60 名であった聞いており、そして財団は非常に危機感をもっております。なぜかと申しますと、海王丸が誘致されたのが平成元年ですから、もう 18 年になります。平成元年にボランティアとして携わった方が当時 40 歳くらいであった方が 60 歳くらいになっている、そういう方がマストに登っている。その次の世代がなかなか育たない。それで高齢化が進んでいる、そして参加が少ないということで危機感を持っておいでる。私自身、うちの学生も一つは教育、一つは地域のボランティア活動に積極的に参加しなさいということで、学生に希望者はボランティア登録をしなさいということで 25 名中 14 名ほど登録をしました。次回から参加ということになります。今後、核である海王丸を有効に使うのであれば、行政も海王丸財団も市民の方も真剣に取り組まないと、ものはあるがソフトがついてこないことになり、結局なくなってしまうのではないかと心配をしております。行政のほうは財団とどういう関わりを持っていらっしゃるのでしょうか。確か、職員は派遣されておりますね。市では、深く中には入らないということなのでしょうか。

部長 : 私の方からお答えしますが、県と市から職員を派遣して、両方で事務局を運営しております。いろいろなイベント関係を担っていらっしゃるのですが、とりわけ今おっしゃった展帆ボランティアの対応については、一時期、市役所の職員に呼びかけたり行政側からボランティアの募集を呼びかけたりした時期がございます。今、危惧されていますように、ボランティアの皆さんの全体の高齢化ということは、非常に目の先の課題になってきているわけで、そういう意味では新たなボランティアの育成が重要だと感じております。そういったことで、財団とは今のところ直接相談はしておりませんが、まさにやっていかなければならない。射水市となって職員も増え、各地にいるわけですから、そういうこともこれからやっていかなければならないと考えております。

委員 : 先ほどもお話をふられたわけですが、バイオマスについて何か発言が

ないかということで、ご存じのように富山新港は全国で一番ロシア材が輸入されるという港です。その中で丸太の皮ですが、これが一番堆積して問題になっています。今、業界の中で第一の優先順位をつける課題として挙がっています。これはどういうことかといいますと、今までは処理業者がいてバーク堆肥として形を変えて、道路工事の吹き付けに使っていて需要が多かった。しかし、公共工事の削減で木皮の行き場がなくなっている。業界として検討しているところですが、燃やすというのが一番早いのですが、焼却炉の整備にお金がかかる、また、焼却に関しては塩分が問題である。また、産業廃棄物、私たちの立場であれば自然に帰るといった意見から、産業廃棄物として定義づけるのはいかがかと思うのですが、そういったものを使ったバイオマスもどうかという話もある。現在の私どもの状況ですが、海竜町でエコタウンというものが計画されているのであれば、そういったものも市を挙げてやっていただければいいと思います。それと先ほどからの話で、せっかく海王丸パークにこれだけ人が集まるのに、昔から思っていたのですが、商業者として出店されているのは、新湊かまぼこだけですね。あの辺に商業者が大変少ないと思います。何かといえば旧商店街の活性化ということを言われますが、人が集まらないところの話をしてもしようがないのではないかと。それだけ人が集まる場所があるのであれば、そこへ進出したらどうかと考えております。そうじゃなくて、中心市街地に人を引き込んで活性化を図ろうという意見もですが、内川沿いは確かに景観がいいのですが、人が住んでいる場所ということが第一にあると思います。住宅地という空間と観光地という空間とどちらか方向付けをしないと中途半端な形になる。極端な話をすれば、内川沿いを観光地にしようとすれば、海王丸パークから内川沿いを循環できる形にしようとするのであれば、少し乱暴な言い方ですが、生活されている方に密集の関係もありますから、代替地を提供して出て行ってもらうくらいの覚悟がないと観光地になれないという印象を持っています。あと、新湊で商売をされている人に、外からこられる方に対してのもてなしの心のレベルが低い。まず、人を迎える気持ちをいかに育てるかということも大事だと思っています。内川沿いに関しては方向性を位置付けることが一番問題であると考えています。いずれにしても今の状態では中途半端な開発しかできないと考えています。

委員長 : 輸入時に木皮をはがしてくる木が年々多くなっているのですか。

委員 : 丸太での輸入は年々少なくなっているというのは事実です。業界内で処理施設を作ろうという話になっても、将来、その皮の供給が続くかということ

ころで、逆に買わなければいけなくなる、材料がないことも考えられる。

委員長 : この方策を作るときも、今のような課題で中・長期のところに書いてあるエコタウンの中で、パークも含めて廃棄物を資源としてまちづくりに活かしていく、そのために企業の研究施設について今からでも積み上げていかなければならないのではないかというような議論があったように思います。それから、内川沿いの話が出ましたが、その辺りお話はありませんか。

事務局 : 内川の開発に関しては、議論はしていないので、個人的な感覚でお話しますが、私が内川で一番魅力を感じるのは、漁船との一体感です。そういう意味で、生活という側面がむしろあったほうが雰囲気としていいのかなという逆の思いを持っております。ただ、そういう人たちを含んだ開発を行っているという側面もあります。今、当面やりうるのは、おっしゃったように一方では生活と切り離してすることも必要であろうと思っております。そういう意味では、たまたま現在商店街の近くの紺屋町の部分、旧北陸銀行跡地が空いている、先に内川沿いが整備されている、なんとかその辺を点にしなから、あともう少し西のほう湊橋までは漁船が多くいるということで、そうした景観として、皆さんに見てもらえるようなものにしたいという思いです。併せて住宅密集との関わりですが、住宅密集については場合によっては移転してもらおうということも当然ありえようかと思っております。そういう中で内川との関連も当然出てくるかと思っており、今取り掛かったばかりですので、弱い部分も多々ありまして、柔軟に耳を傾けさせていただいて実現させていきたいと思っております。

委員 : おっしゃられることは十分分かります。確かに内川は場所場所で魅力が違ってきます。絵を描くわけではないですが、この場所はこうしたいという風に、漁船が並んでいる景色は確かにいいんですが、ただし、人が生活している、その生活感が見たいといってもそこに住んでいる人がいらっしゃるわけですから、例えばそこは遊覧船で通るだけとか、実際に降りて歩いてみるのは別の場所でとかあると思います。

委員 : 商店連合会として、商店街の立場から言いますと、商店街は市民の生活の一躍を担って生活をしています。特に海王町を開発していく中で、実際には観光をメインとした形態になるわけですね、新しい商売を若い人の力で開発していかないと、そこでは本当の商売はできないという感覚です。まちの中は、

内川は非常に情緒があつていいと思いますけど、私たちはそこで生まれて朝に船が出て行く音を聞きながら育ったので、本当にものすごく情緒があつていいところなんですけど、実際、船に乗った人がそれを感じるかといえば感じないと思います。観光は通ってだけで、それを感じればリピーターとして来るかもしれませんが。観光で行くのであれば、観光という形の中で創っていかねばならないと思います。まちの中は、本当はどんどん若い人に来てもらって新しい商売をしてもらえればいいのですが、実際は跡継ぎさえいないというのが現状です。内川の北側は空き家だらけで老人ばかりで高齢社会になっていて、若い人は別居して姫野や片口などに出ている。商売は、老人ばかりなので購買力が落ちて力がなくなっているのが現状です。商売をしていくことが大変厳しい状況です。だから、まちを活性化させるには、観光客で商売をするかという本当のきわどいところにきているのではないかと思います。簡単にまちの中で何かできないかと言われますが、私の後ろには若い人がだれもいないというひどい状態です。自分の商売で手一杯で一緒にやろうと声をかけても跳ね返りがないので、どうすればいいかと自分で思っています。自分の商売でさえ危惧されるような状態です。その中で新しい商売として観光客を引き入れるという話の中では、すし屋さんがあつたり魚屋さんがあつたり、非常に恵まれた資源があるから大変いいと思う。そこで生まれ変わるのか寂れていくのか、今が本当の境目だと思います。本当は非常にいいものがたくさんあるような気がしますが、実際どうやってそれを結び付けていけばいいのかと思うと、自分では整理がつかないのが現状です。商売としては先行き危惧されるという状態はほとんどの商店がそうだと思います。いいところはたくさんあるので、商売のやり方によれば変わるかもしれません。今はいい機会だとは思いますが、年を取った人にそれをやれといつても無理だろうと思いますから、若い力を入れてやらないと難しいという気がします。

委員長 : 現実を考えれば厳しいということですね。内川で商売を始めて今現在経営に見合うかどうかのことを考えたら。

委員 : おすし屋さんや割烹なんかであれば、やり方によってはそれなりに繁盛すると思います。ただ、地域の住民を相手としてやっている分には苦しいと思います。だから、商売の形態として、変わってしまわないと実際に商店街に人を引き入れることは至難の業かなと思います。

委員長 : ただ、ここ10年くらい内川沿いを見ていくと、基盤整備だけは非

常に進んでいるように見えます。ですから、更に人を引き入れるために、民間で船の運航も始まっている。これで、内川の橋が整うと、私も時々人を連れてくるんですが、船から下りてポケットパークでちょっとお茶でも飲みたいなど思うし、内川沿いの家を直すときに、このようなものを推薦するとかいう、内川で何か作るときは公共工事も含めて、せめて何かをやっとかないと、にぎわいの時点でだめになっているような気がします。それと、私が少しずつはじめているのは、せっかく船が出たので、あれを長続きさせるため、たった一人のお客でもいい説明をして、新湊へ来てよかったと思われる、たった一人でもボランティアでつきっきりで案内をするという、そういうところからやれるという基盤はできているのではないかと感じています。参考に私が案内をしているときの要領をお配りしておきましたので、こういうものをテープで流すのは多くの方が来たときはいいのですが、今の内川沿いを考えると基盤ができていますのでそこをどうやってソフトでやっていくかということ考えてみたものです。そろそろ、そういうことを船と話し合っ、反応を見たいなと思います。読まれて、次回意見を聞かせていただければとも思いお配りしました。

委員：内川観光についてお聞きしたいのですが、毎年学生を連れて内川を見に行くのですが、郷土を知ろうということで使っております。毎回思うのですが、今でもトイレは奈古中学校のところにしかないんですよね。先ほど、委員長は基盤整備は整ったとおっしゃいましたが、決してそうではない。ですから、20人くらいの学生を連れて行くときは、常にトイレはここだけで、それ以降はないということを言っている。観光でおいでる方もそこは気にすることで、そこが一番弱いのではないかと。ですから、早急にハンディーキャップの方もできるようなトイレの設置を、基本的なものだと思うので、早急にやっていただきたいと思います。ご予定はありますか。以前にも同じようなことを申し上げたのですが。

事務局：私もぜひ必要だとは思っていますが、先ほど申し上げたとおり、現在の計画には入っていません。できれば、私の個人の意見とすれば、今見直す計画の中に入らないかと。ただ、先ほどおっしゃった川の駅の部分にどれだけの予算が取られるのか全体を見なければいけません。それから、先ほどの高齢化が進んでいるという話とか、生活と切り離してという話とか入り組んでいるんですが、一定の漁船とその近くの雰囲気と申しましようか、そういったところを残すためにも、そういったところも含めて何か考えられないかと思っております。ぜひ検討させていただきたいと思います。

委員 :なるべく早く実現を。これは戦略会議ですので、夢を語っていても仕方がないですね。毎年思うので早く実現をお願いします。

委員 :トイレは海岸口に行けば結構あるんですよ。例えば旧漁港、それから、立町通りをつききった海岸通なんか、結構あるんだけど、肝心のほしいところはないんです。その辺は工夫もいるし、なかなか目につくところにトイレは作り難い。だから、公共施設の一角を利用するとか、例えば勤労青少年ホームの一角に作るとか、さりげなく作ることが大事かなと思います。あるんだけど、ほしいところはないということじゃないですかね。

委員 :一般の居住地につくることはできない。だから外のだれもないところに作る。

委員 :なかなか難しいところだから、公共施設の一角がいいのではという気がする。

委員 :立町の公園の中にも作る予定でしたが、周りに家が立っているので。

委員 :私もまちの中で作るのは無理だと思う。だから、公共施設の一角で作るのがいいと思う。それと、今、都市計画法が変わって、全国のオールドタウンが駐車場になる。富山市でも街中は駐車場ばかり。高岡は新湊と似ていて空き家ばかり。こういうことをどうすればいいか新湊なりの処方箋を書く必要がある。観光客ではなく、市民が戻ってくるようなことをしなければいけない。まさに今、これは日本中の問題。

委員 :商店街がはやっていた頃は三世代家族だった。三世代家族が戻ってこないと賑わいは戻ってこない。もし、市の政策で、そういった家族が戻ってきたら補助金を出すとか、家族構成の住み方を促進していくような政策が根本的には必要ではないかと思います。現在は核家族が進み、地域を大切にしない家族が増えた。外から来た人だけを対象とするのではなく、実際に住んでいる人のことを考えなければいけないと思います。

委員 :それと富山市は地域を限定して、そこに家を建てたら補助金を出すというのも明らかにしている。だから、どんどんマンションが建って家も建つ。

富山市でさえしているのに射水市でなぜやらないのか。東京がなぜ高層ビルばかりが建つのかといえば、都自身で容積率を取り決めているからだ。だから、法律一本で変わる。新湊の準防火地域とか一番厳しい適応を受けている地域は、これを変更しないととてもじゃないが、よくなると思う。都市計画法を自分のところで作るくらいにやらないと話にならない。

委員 : 今年のゴールデンウィークに孫と一緒に海王丸パークへ行きましたけど、フリーマーケットがあつたり観光船に乗ったりして結構楽しく過ごしました。集客を狙うんだつたら、こんな広いエリアで考えてもお客さんに歩いてくれといった義理もないわけで、お金のことも考えたらなんでこんなに広いエリアで考えるのかと思います。海王丸パーク辺りで、丁度 3~4 時間は十分に過ごせると思います。それと、小樽とかは運河があつて大変はやっていますが、中心商店街がすぐそばです。駅も近くです。また、小布施とかは地域のものを見る施設や駐車場があります。だから、そこになんとか地域の特色を感じることができて、地域のものを食べられるところと駐車場とトイレがあれば十分だ。それだけで3時間4時間来てくれると思う。私どもの地域の特性といえば海王丸ではないか。特長といえばおいしい魚が食べられるし、海王丸パークでおいしい魚が食べられれば、何も内川まで来てくれと言わなくても、それは無理だ。あと、もてなす心とすれば、高岡でも同じように商店街の話が出まして、高岡の人が反省していたのは、砺波や新湊や氷見から高岡へ買い物に来ているのに、感謝をしているのかということも思っていた。私たちも一緒に会社の関係で客船が来るので友人の海産物業者に販売を頼んだら、儲けにならないと断られた。それも事実で、本当にもてなす心やボランティアをやるとなれば大変なことだと思う。私でも、水辺のまち新湊で1か月に1回映写会を開いていたが、子供の映画と大人の映画が1時間半ずつで子供 20 人ほど、大人が15人ほどの参加があつた。本当は住民の人が参加してお金も出し合つて、ボランティアとお金を出す住民とミックスして輪になってやっていければいいのだが難しい。献身的にお金のことも考えてボランティアを活用することも大事だけれど、地元住民も大変だし、もてなしの心も大変だし、全体的に考えても非常に難しい問題だと思う。

委員 : 今の話では内川にあまり魅力がないとのことだったが。

委員 : そうではなくて、海王丸パークと内川といった広い範囲で見てくれといつても、お客さんにはそこまでの義理はないということをお願いだけだ。

委員：毎年友人がやってきて、風呂上りにビール片手に内川沿いを歩いてお寿司屋へいくのだが、こんなすばらしい財産をほっておいてどうするんだと言われる。

委員：しかし、50人、100人といらっしやった場合、それに対応できる施設がありますか。

委員：今はないですけど、先ほどから意見が出ている温浴施設なんかや奈呉のほうに長いビルを建てて、上は住民の居住場所で下は商店街にして、皆さんがおいでたときにおもてなしをするといった商売をしてはどうかと思います。今、中新湊を歩いてみますと、8時くらいになると、もうだれも歩いていません。きれいに整備はされたけどそんな状態ですから、少し考えてみればどうかなと思いました。

委員：青年会議所ではハード部分ではなくて、ソフト部分で協力していきたいと思います。ただ海王丸が来たからとか橋ができるからということではなく、そこに住んでいる人が誇りを持って郷土を良くしていこうという気持ちをみんなが持たないと発展していかないと思います。市民にはもてなし、ホスト的な気持ちを持って観光客に対してしっかり対応していくとか、そうした部分も同時に必要ではないかと思っています。また、射水市として見たときも新湊大橋ができるのは、射水市の発展にはなるのですが、新湊地区の部分だけではなく射水市の資源をここに来た人がつなげて活用できるようなものを4年5年かけて準備していかないと、橋はできたがホスト側の意識が全くなくて、1回来た人が2回、3回と来てくれなくて、起爆剤としてのすばらしいきっかけがある中で活用していけないことになりますので、意識を改革していくような部分を考えなければならぬと思っています。それと、仕事柄の視点でいいますと、まちづくり方策の第2段階に海竜町に調理学校ですとか市内飲食店の後継者育成とかいうのがありますけれども、今、寿司屋や割烹とかを運営されている方は、かなり高齢で後継者が少なくなっている。その中で、まちの資源であるおいしい魚が地元で食べれないような状況に今後10年20年のうちに間違いなくなってくるということで、こうした調理学校などは大変重要ではないかと思いますが、ただの調理学校ではなくて、経営スキルも同時にやっていかないと調理師として一人前になっても経営能力がなくて、それができないと淘汰されていくので、調理師プラス経営能力を持った調理師を育成する機関を作って、

成績がいい者には投資して地域の資源を活かして盛り上げていくような学校が必要ではないでしょうか。そういう学校についても造るには時間がかかりますので第2段階となっていますが、本当は直近の4年後5年後にそういう人たちを生み出すようなものを造れば、ホスト側として大橋ができたときに、何店舗も地域の資源を使ったものができていて、自分にお金があればすぐにでも造りたいぐらいです。まちづくりは5年後6年後を考えていかなければならないと思うので、早急に取り組んでいかなければならないと思います。

委員長 : ほかに何かご意見ございますか。

委員 : 第1段階で朝市の開催ということが書いてありますが、現在計画はありますか。海王丸パークで射水市の特産品を集めた朝市があればいいと思いますが、高山の朝市のように。

部長 : 今、具体的なものはありません。合併前の小杉町ではやっていたらっしゃったと思います。

委員長 : 海産物の朝市とかは新湊ではやっていないですよ。では、そろそろ時間も迫ってきましたね。

部長 : 先ほどから、行政への注文や問い合わせを聞かせていただきました。今日お答えできなかった部分は次回にお答えすることとしまして、民間の活力を活かしてということで、先ほどの資料の説明の中でも区分けをした形で説明させていただきましたが、民間でやっていただく場合の方法だとか、提言をいただければいいのかなど、時間が経過しておりますけれども、行政がすべきもの、民間におまかせしたほうがいいものと、それなりにすみ分けはできるわけですから、そうした場合の民間サイドについてのこういう方法、こうしたアイデアというようなご意見があればお願いしたいと考えております。

委員長 : この会議の終了は午後4時ということでよろしいのですか。

部長 : 委員の皆さんのご都合もあると思いますので。

事務局 : 予定ではそう考えておりましたが、議論が活発にされるということであれば。

委員長 : それでは4時に閉めるということで、先ほど部長がおっしゃったことについて私はこう考えていました。今年度第1回で、新しく入られた委員もいらっしやいますので、たくさんの進んでいるものなどの説明を聞いて、ざっくばらんに議論をして、早々に第2回目の会議を開催し、具体的意見がほしいといった部分を各委員の宿題にしようと思っていました。ですから、一番初めに事務局から説明のあった資料の中で、この部分についてはぜひ意見がほしいというところがあったと思います。行政でやることは、ここまで来ているという説明もありました。それから、民間という部分でのノウハウをあとの時間で出して、出し切れない部分は次回を早急に開く準備をして、それまでの宿題として委員に考えてきていただくということにしたいと思います。何かお気づきのアイデアや意見はありますか。例えば最後に出た朝市について、だれがやればいいのかという、誘致の方法など、こうすればやっていただけるのではといった意見があれば、それから、情報提供について、パンフレットを製作するアイデア、来訪者に配布するパンフレットとして、それから景観問題にもいろいろなアイデアがあると思います。新たな視点での景観ということです。それから、空いてる土地での花壇づくりなどの、一時的な有効利用の方法や、その植える花の種類などの問題もあります。また、海洋水産技術活用の施設についても、ブランドの提案も新湊ではあると思います。先ほど、木材関係のリサイクルの関係も考えてみたいと思います。それから、集客機能の倉庫をリニューアルした照明設備、内川沿いの民家を改装したいろいろなものの導入も難しいかも知れませんが、こうすれば実現の可能性があるんじゃないかという意見もあれば、また、レンタサイクルの方法として、このまちにふさわしいものがあれば、いろいろ見落としした部分もあるかと思いますが、こういった部分で集中してご意見をいただきたいと思います。

事務局 : 委員長、それでは、今、委員長がおっしゃったことが本来の目的だと思いますが、たくさんありますので、私のほうで戦略会議で考えていただきたいものをまとめて、委員の皆さんに郵送いたしますから、それを見ていただいて、委員の方々にアイデアをしばっていただいて、そのアイデアを持って、早めにそれを議題にして、今後は議題はそれだけになっていくとは思いますが、スケジュールをあわせて集まるというのはいかがでしょうか。

委員長 : そういうことで、いかがでしょうか。少し考える時間も必要だと思いますので。それでは、そういうことで、郵送しますから、周りの方や会合でも、いろいろ議論をしていただき、早急に集まって議論をしたいと思います。

ので、ご準備をお願いします。それでは、その他として資料3のご説明を伏木富山港湾事務所からお願いします。

伏木富山港湾事務所：7月20日のシンポジウムですが、名前を「あいの港シンポジウム」としました。あいの風、出会いなどの意味で「あい」を使いました。時間は13時30分から16時30分までで、基調講演とパネルディスカッションがありまして、基調講演は、演題が若干変わる可能性があります、北陸経済連合会の新木会長にお願いしております。その後、パネルディスカッションを開催し、「私たちの暮らしを支えるみなとに期待すること」ということで、雨宮先生にコーディネーターをお願いしております、6人のパネリストに参加いただきます。分家市長、橘市長からは、港に対する要望や抱負等を市長の視点でご発言いただきまして、東海大学の東先生からは景観の専門家としての意見をいただきたいと思っております。富山大学の李先生からは物流関係の意見をいただき、生活ネットの羽根代表からは、地元からの視点で意見していただきたいと思っており、当事務所の所長から、行政の視点から取組や課題についてお話し、最後に閉会のあいさつは富山県の齋田副知事にお願いしております。簡単ですが、以上です。

委員長：県から、一言ありませんか。

県港湾空港課：県の機構改革の一環で、今まで港湾課と航空対策課というのがあったのですが、4月から二つが一つになりました。私は、空港は初めてですが、港湾は3回目です。1回目は30年前です。その時に東埋立地の計画をしておりまして、西の埋立は工事が始まっていましたが、その時に東埋立地の計画をしていたと思います。現在、その埋立地の利用計画をこういうように考えていただいて、大変ありがたいことだと思っております。海フェスタの関係でお話がありましたが、資料は持ってきませんでしたが、私の方でお話しますと、先日、海フェスタが始まる前の最後の実行委員会がございまして、大体の行事を決めさせていただきました。全部で62事業となっております。富山県の臨海部の市町で行い、今までやっていた事業をこの期間に集めていただき、62事業となっております。7月15日から7月23日までの9日間を予定しております。全体で20万人のお客さんが集まると予想しております。そのうち、海王丸パークで15万人を予定しております。まず、7月15日の土曜日に海フェスタのオープニングを予定しております。これは、海王丸パークで知事が出席して行う予定にしております。7月16日の日曜日

には、万葉ふ頭で海上パレードが予定されております。7月17日の月曜日、海の日ですが、富山市のカナル会館で北前船まちなみフォーラムが予定されております。19日の水曜日ですが、式典・祝賀会が国際会議場で予定されております。それから20日には、先ほどお話のあった特定重要港湾のシンポジウム、またポートセールスの会議も予定されております。23日の最終日は閉会式ということで、伏木のほうで予定しておりまして、毎年8月1日に伏木まつりがあるわけですが、それを今回7月23日に変更していただき、海フェスタの閉会式に合わせて開催していただきます。また、9日間ですが、いろいろと予定しておりますので、ぜひ参加していただきますようお願いします。

委員長 :ありがとうございます。私の不手際からご迷惑をおかけしました。先ほど事務局から申し上げましたとおり、各委員のほうへ考えていただきたいことをお送りします。それを宿題として、今後具体的に進めていこうと思いますので、もし、余裕があれば、事前に書いたものを事務局に出していただければ整理もつけやすい、そして議論に入りやすいと思いますので、ご協力をお願いします。

事務局 :委員長、ありがとうございます。委員の皆さんへ課題を整理してお送りしますので、よろしくお願いします。なお、次回ですが7月には海フェスタが開催されることから、8月に開催したいと思いますので、よろしくお願いします。今日は、ありがとうございます。